

【児童への話】

最近朝晩の気候がとても涼しく、寒いと感じる日もありますね。先週の土曜日8日は、寒い露と書いて「寒露（かんろ）」という、季節の節目の日でした。秋が一段と深まり、地面に露がおり、農作物の収穫の時期となります。そして、美味しい秋の味覚が楽しめる時期でもあります。

秋の味覚といえば、先日、給食でサンマの塩焼きが出ましたね。秋に獲れるピカピカの刀のようなお魚で、もともとは細長い魚を意味する「狭真魚（さまな）」という名前が変化して付いた名前とされています。今日は先生が大好きな、お魚の名前の由来について、いくつか紹介します。お家で話すと、へー！と驚かれますよ。まず、みんな大好きなマグロです。古い書物によると、目が黒いことから眼黒、そして「眼黒（マグロ）」と言われるようになったとされています。

次にニシンです。お正月に食べるカズノコの親ですね。食料として保存するときに身をふたつに裂いていたことから、ふたつの身で「二身（ニシン）」となりました。

次にサバです。他の魚に比べて歯が小さく細かいことから、小さい歯で「小歯（サバ）」となりました。同じようにサメは、身体の大きさにわりに目が小さいから、小さい目で「小目（サメ）」です。

次はブリです。寒い季節のブリは、とっても脂がのって美味しいです。そのあぶらを縮めて「ブリ」となりました。

最後にアジです。これは有名ですね。小さくてもとても味がいいことから「味（アジ）」となりました。見た目や特徴ではなく、人が食べた感想が名前になった面白い例です。

いかがでしたか？今日のこのお話は、担任の先生と教室でも確かめてみてください。今日は7種類のお魚だけでしたが、まだまだお魚にはたくさんの種類がありますので、その由来や生態、食べ方などについて調べてみるのも、これからの時期にオススメです。

番町小の皆さんには、自分の知りたいことを積極的に調べ、学ぶこと、知識を得ることの楽しさを知り、これからの人生をもっともっと豊かにして欲しいと思います。今日は「魚の名前の由来」についてお話ししました。

【本講話について】

先週の朝礼では、運動会の閉会式をオンラインで行いました。学校の全員で開会式や閉会式、応援合戦や鼓笛隊、全校競技やリレーなどをしていた頃をふと思い出すことがあります。今まで慣例的に行ってきた行事や活動には、やはり続けられていただけの教育的意義があったのだと感じています。憚ることなく子どもたちに必要な活動をさせてあげられる日が来ることを願うばかりです。

さて、10月は子どもたちの学習や生活を改めて整える時期です。落ち着いた生活、良好な人間関係、知的な学習が子どもたちをグンと成長させます。少し腰を据え、じっくりと教育活動を展開していきます。お家でも学校生活についてお話する機会を設けていただくとともに、「早寝早起き朝ごはん」で子どもを笑顔で送り出していただけると幸いです。